

# フレーベル先生の遺跡を訪ひて(二)

フレーベル館副社長  
法學士、文學士

高市慶雄

## 序

世界教育史上に於けるフレーベルの地位が何であるか、或は幼稚園教育に對するフレーベルの學說の理論的檢踏、等に關しては、邦語に移し植ゑられたる文獻も、三はあり、歐文資料に至つては汗牛充棟も當ならぬ位であります。またフレーベルの學說が、今日の新しい研究の視野より見れば、幾多批判せらるべき餘地多く、歴史的存在としてののみ價値ある部分の多いことも事實であります。それにも係らず、先生の抱懷せられた根本的の理念或は理想は、なほ脈々として今日に生きて居るものと信じます。先生の創められた幼稚園制度が世界的に擴大して、なほ益々發展しつつあることいふ事實が、最も雄辯に之を物語つて居ります。此の意味に於て、先生が幼兒教育の始祖であり、世界の幼兒の父であるといふ事は至當であります。私はあの中世紀の篤信者がイェルサレムの聖地を訪れた時の如き感激を以て、獨逸に於けるフレーベル先生の遺跡を歴訪したのであります。此のさゝやかなる一篇は、今夏文部省講習會、岡山市の吉備保育會等に於てなされた講演の筆記であります。

## チューリンゲン森林地帯

フレーベル先生は、チューリンゲン森林地帯に於て生れ、活動し、また逝去せられたのであります。都會に出て活動する事を好まれなかつた様に思はれます。チューリンゲンこそ先生は切つても切れぬ關係の深い地方に申すべきです。

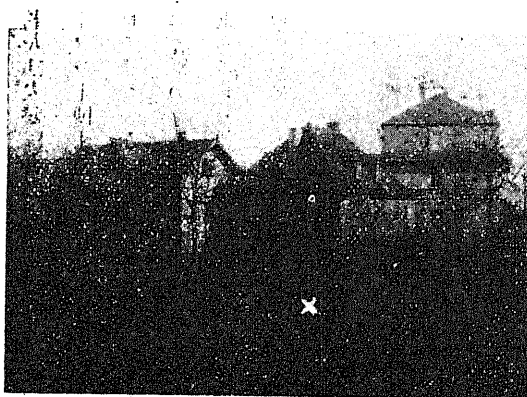
此の地方は「我國で言へば、杣山中の如き所で」先生の故地オーストリアのシュタイン等と申しましても、伯林などでは、殆ど識つて居る人はないといふ様な甲田舎であります。此の地方は、獨逸の中部地方にある山岳森林地帯で、景色のよい事と樹木の多い事を以て知られて居ります。獨逸でこの地方を Grines Herz Deutsch-lands (獨逸の緑の心臓) と呼びなすのは、此の故です。これは美しい言葉であると思ひます。また「シュテュリンゲンに住まひ得る者は、神に愛せらるゝ證據である」といふ諺もあります。此の地方はまた、最も獨逸的に申せば、所謂獨逸魂の源地と謂はるゝ所で、過ぐる歐洲大戦當時、祖國の爲めに最も勇敢に戦つたのも、此の地方の住民であつた相です。

フレーベル先生の活動地域は、此シュテュリンゲンの殆ど全般に亘つて居りますが、大別して大體二つの區域に分ち得るのであります。即ち先生の前半生を費やされたシュワルツァタル溪谷地方と、後半生に活動せられたシュワイナ・リッペンシュタイン地方とこれでありませう。前者はシュテュリンゲンの東北部、後者は其西南部に當り、兩者の間に一寸隔りがあります。それで、フレイベル先生の遺跡を考察する場合には、此二つの地域に分けて考へる事が必要であります。

### ワイマールよりイエナへ

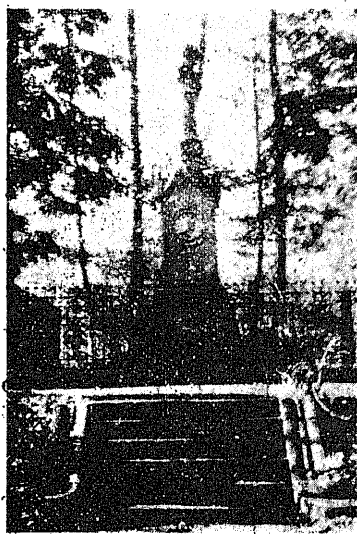
私は一昨年十一月九日の早曉、ベルリンのアム・ハルトト驛を出發、先づ足をシュテュリンゲンの東北部シュワルツァタル溪谷へ向けました。途中文豪ゲーテ、シラーの遺跡に名高いワイマールに少憩、折しもナチス記念日で、鉤十字の國旗翻轉たる中を、車を驅つてゲーテ博物館及びシラー・ハウスを歴訪、獨逸の文化を代表する此兩巨人の追憶に胸を躍らせました。こゝから支線に乗換へて幾許もなくイエナ市着、此所は今光學工業——レンズの製造——に名高い工業地帯であります。こゝから支線に乗換へて幾許もなくイエナ市着、此所は今光學工業——レンズの製造——に名高い工業地帯であります。あると共に、古い大學の所在地で一七九九年より、八〇年迄足掛石在間、フレドベルが此大學に學生々活を過した事は周知の事實であります。私は更に進んで薄暮、夜の帳のまさに垂れなんとする頃、バード・ブランケンブルヒに着きました。

私がこゝへ来るに就いては、一つの日あてがあつたのであります。即ち最近來朝された伯林大學教授シュプラーミゲル博士の紹介により、前ライプチヒ女高師教授で、フレーベル研究の世界的權威ミ謂はる、プリーフェー博士 Dr. Prifer. をお訪ねする爲めであります。博士は目下隱退して、フレーベルも最も關係の深いこのチューリンゲンのブランケンブルヒに悠々餘生を送つて居られるのであります。先生の御寓居はゲオルグ通り二十番地 Goergstr. 20 で、宿かぢも遠くない事が分りましたので、翌日はお訪ねする積りで居りました。さて目覺むれば、まばゆき許りの好晴で、溪沿ひの窓から



(ヒルブレンケンラフ)宅住のルバーレフ

は、香はしき精氣が快く肌をさします。宿のぢき近くにフレーベルの百年記念碑があるミいふので、先づこゝに參詣して寫眞なきを撮つて居りますミ、向うからピッコをひきくステッキをついてやつて来る上品な一老人があります。



碑念記年百ルバーレフ

つかくミ私の傍に  
來て、肩を叩き乍ら  
お前はこゝから來  
たかミ尋ねますの  
で、私は日本から、  
フレーベル先生の遺  
跡を訪ねて參りませ  
だミ回答しますで、

老人は大變に喜んで、兎に角自分の家へ來い申します。訊いて見ますと、この老人こそ、兼ねて令名を傳へ聞くアリョーファー博士其の人に他ならなかつたのです。奇遇申すか、偶然申すか、これこそ地下のフレイベル先生のお引合はせではないかと思ひました。先生のお宅は、近所で、相當立派なお住ひです。奥様、頗る美しい御令嬢、それに御令嬢の許婚の方等が出迎へられ、下にも置かぬ歡待振、お茶を出すやら、御馳走を出すやら、また有名な「フレイベル傳」その他の博士の御著書、博士の主筆する「親ミ子」 Eltern und Kind といふ雜誌、御自分の博士論文等に署名して下さる、或は壁にかけてあるフレイベルに關する色々の珍らしい寫眞や古文書等を惜し氣もなくはづして下さる、それからこの町のフレイベルに關する數多くの遺跡を、悪い脚をひきづりひきづり自ら案内して下さる（博士は歐洲大戰に出征し、脚部に



園稚幼の初最界世るせ設創のルバーレフ

負傷せられたのであります。博士の態度は、孔子の所謂「朋有り遠方より來る、亦樂しからずや」との言葉をそのまゝ具顯してゐる様に感じました。

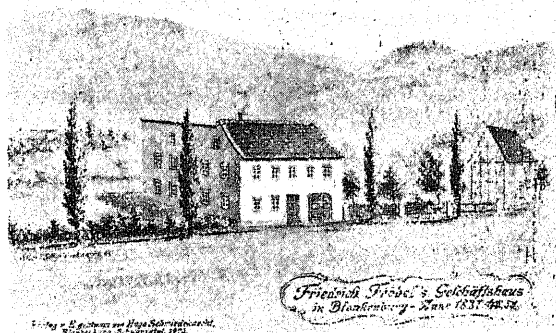
さて此のブランケ・ブルヒには、先述の百年紀念碑の他、フレイベルに緣故の深い色々の遺跡があるのです。第一に名高いのは、フレイベルが始めて建てた世界最初の幼稚園の跡です。その建物は、さして大きいものではありませんが、フレイベルの時代そのまゝに残つて居り、今はアドルフ・ウェーデル・シューレ Adolf Wedel Schule といふ小學校の教室に使用されて居ります。この建物の左側の石

校を登るに、エムグラナーデ *Emgranade* を呼ばるゝ高臺の遊園地があります。こゝは、フレドベルが、その最初の幼稚園児を連れて楽しく遊んだ所で、ブランケンブルヒの街や、その周邊の美しいチューリンゲンの風物を、一眸に收むる見晴しのよい地です。フレドベルの手植の樹があります。今日は仰ぐ許りの亭々たる大木となつて居ります。フレドベルがこゝに開いた最初の一個の幼稚園が、今日は世界中に擴まつて、その數幾千、幾萬たるを知らぬ有様です。この奇蹟にも似た幼稚園の大發展を、この大木が豫言し、象徴して居る様に感じまして、私は低徊去るに忍びず、百年前の在りし日をまぎ／＼と目前に追想した事で御座いました。

この高臺を降り、マルクトといふ町の古い中心を過つて、シュワルツァートル河沿ひに二棟の記念すべき家屋があります。一は先生の住宅で、今はマッヘライト *Muchelid* といふ人の住ひになつて居り、他は *Geschäftsbaus* を申しまして、フレドベル先生の恩物工場兼店舗であります。即ち先生がフレドベル式恩物を考案せられたが、未だ今日の如く幼児教育の發達してゐない當時に在つて、何人も之を製作して呉れる者がなく、そこで先生は自ら工場を建て、恩物を製造して、汜く頒布せられたのであります。これは一種の商行爲の如く見えますが、實は幼き者に合理的の遊具を供給せんとの熱情に出づるもので、經濟上の利害得失に就いては、顧る所少かつたのであります。このフレドベルの工場兼店舗は、今日は改造されてシユラー *Scheller* といふ建築技師の住宅となつて居ります。

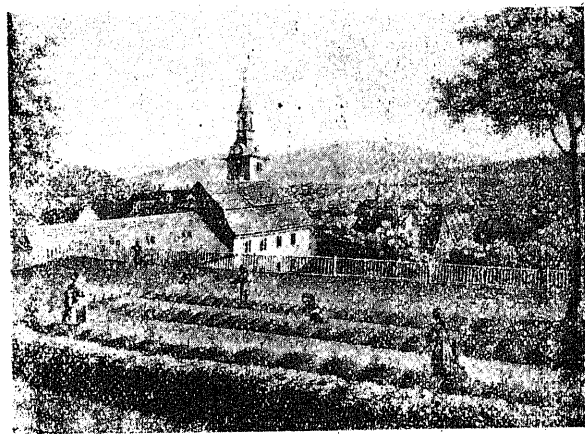
此の町には亦、フレドベル先生の先夫人ウイヘルミネ・ヘンリエッテ女史 *Wilhelme Henriette* の墓があつて、私もブリュエーファー博士と共に其の墓前に跪きました。

フレドベルの方法を其の儘採用する「フレドベル模範幼稚園」が此の町に在る事は曩に申述べました。此の幼稚園には「フレドベル博物館」を銘打つ陳列場があります。フレドベル先生に關する珍らしい寫眞、繪畫、先生が生前使用せられた



ルベールフ 舗店兼場工物恩のルベールフ

(姿の、まのそ時當世在)



デーナラフスエだん遊と兒園の初最がルベールフ

家具什器、身の廻り品、肉筆の書簡數十本等が蒐集保存せられて居ります。それらの中最も貴重なものは、先生の著書「人の教育」 Menschenerziehung の原稿であります。私は歴史に多少の趣味を持つて居る關係上、歐洲の有名な古文書は成るべく涉獵しましたが、先生の如く整然として美事なる筆蹟は稀であります。以上の遺跡は、全部映畫に撮影して歸せましたので、講習會席上に於て上映せられました。